

【別紙様式 I】 令和5年度 学校評価報告書

学校名 相川中 学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成 【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成 【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成 【創造】

校長名 長谷川 真

学校教育目標

学校経営の方針

自立・共生・工夫 ～豊かな心と学ぶ意欲を持った生徒の育成～

- 目標に向かい、よく考え行動できる生徒の育成
生徒一人一人に寄り添い、個に応じた指導・支援をする教職員集団づくり
- 多様な考えを認め、共に成長しようとする生徒の育成
人権意識を高め、切磋琢磨しながらチームとして指導にかかわる教職員集団づくり
- あきらめず、工夫して課題解決に取り組む生徒の育成
学校だけでなく、家庭・地域・関係機関とのつながりを意識し、大切にする教職員集団づくり

今年度の重点目標

- 仲間と共に磨きあう活動の充実
- 安心・安全な学校づくり
- 地域との連携の推進

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
仲間と共に磨きあう活動の充実 ・基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力、さらに学びに向かう姿勢・人間力等の育成のバランスを心がけ、主体的・対話的で深い学びとなる授業を積極的に取り入れる等、授業の工夫改善を進める。 ・自他を認め、支持的風土の醸成を図るとともに、対人関係調整力の育成に努める。	1・2・3	・各教科の「年間計画」に基づいた指導を行い、学力向上プロジェクトシートを活用し指導の工夫を行った。また、数学科、英語科、保健体育科においてチームティーチングの授業を実施した。 ・元気アップスクール推進事業による個別相談や、学カステップアップ支援員等による授業支援を実施した。	・数学・英語に関しては、習熟度の差が大きく、複数の教員による教科指導は有効であり、学力不振を原因とする不登校生徒への対応という意味でも有効であると考える。 ・授業内でのペアやグループ学習を積極的に取り入れることで、他者の意見を取り入れながら個々の思考力・判断力・表現力を高めることができた。 ・個別支援・指導により、定期的に登校できるようになった生徒もあり、少しずつ教室へ戻る契機になっている。	・これまでの数学・英語における少人数指導やチームティーチングは一定の成果を上げてきている。生徒からは、わからないことをすぐに聞くことができて安心できる」という声が多数上がっていることから、次年度以降も実施していきたい。 ・個に応じた指導を続けることが、不登校の未然防止にもつながっていることから、支援員等を有効に活用しながら、今年度同様の支援教育を継続していきたい。

安心・安全な学校づくり ・関係機関と連携しながら一人一人のニーズに応じた支援教育を進めるとともに、その成果を生かした生徒指導・支援の充実を図る。相川中の良さを生かしつつ、常に工夫改善を繰り返し、組織的に取り組む。	2・3	・教育相談前にアンケートを実施し、相談活動を充実させるとともに、個に応じた指導を充実させた。 ・生徒指導・支援部会を定期的に実施して情報を共有するとともに、SCや関係機関と連携し生徒指導・支援の充実を図った。	・各学期に教育相談を実施しており、学級担任と生徒の人間関係構築の観点から、非常に有効である。今年度は、SCを講師とし、自己肯定感に関するテーマで講演会を実施した。 ・不登校生徒が多い状況の中、生徒支援を進めていくうえで、関係機関の協力は欠かせない。青少年教育相談センターや福祉関係機関などとも連携し対応しているが、全体的な不登校生徒数の減少には至っていない。	・SCの講話が好評であった。次年度も直接生徒の自己肯定感の向上等をテーマに講演会を実施し、不登校未然防止や心身の健康について考える機会を作っていきたい。 ・SCや厚木市教育委員会・福祉関係機関等との連携を強化し、生徒個々が抱える課題について、様々な角度から支援をしていきたい。 ・生徒一人一人が「できた」「わかった」と実感できる授業改善に取り組み、不登校等の未然防止に取り組んでいきたい。
地域との連携の推進 ・家庭や自治会、公民館、青健連等の地域諸団体の教育力を生徒の成長に生かすことを目指して、地域との交流を促し、生徒の自主的・自治的な活動の推進に努める。 ・ESDのテーマを「環境」「人権」として、構成概念のどの部分の理解を深めるものかを理解し、実践に当たる。	1・3	・学校運営協議会を開催し、学校行事への協力や地域行事への参加について協議を行った。また、厚木市年末清掃等への参加協力を行った。 ・生徒会活動を中心に、各委員会で考案した人権に係る呼びかけや掲示物の作成等の活動を行った。	・地域清掃や公民館行事等では、参加生徒の成長とともに、地域からの感謝の声が寄せられるなど、子どもたちを地域全体で育てていくという意識が高まった。また、学校に関わってくださっている地域ボランティアの方へ、生徒から感謝のメッセージを届ける等、地域との関りを持つことができた。 ・各委員会が各々の役割としてふさわしい活動を考え、全校生徒へ働きかけた。また、昨年度に引き続き、エコスクールでは、生徒会本部を中心にコンタクトレンズケースの回収に加え、今年度は古布リサイクルの活動に新たに取り組んだ。	・来年度から導入となる地域学校協働活動を活用し、地域の方が学校の教育活動に参加することから相互理解を深め、地域や生徒の実態に合った取組ができるよう工夫し、地域全体で子どもと関わっていく風土を大切にしていきたい。 ・環境問題や人権課題に対して、生徒会活動、各学級や部活動等、様々な活動場面において、より理解を深め、自ら実践できる人間づくりを推進していく。また、SDGsの取組について、地域との関わりの中においても意識が高められるような機会を作っていきたい。
今年度の学校関係者評価委員会からの意見				
◇教育活動の充実について ・令和5年度は、体育大会や文化発表会等の行事が、前年度より拡大して実施できたことは、生徒や保護者にとっても、大変有意義だったと思われる。 ◇地域との協働について ・生徒が地域の行事に参加できる機会が戻ってきている。次年度は、地域学校協働活動が始まるとのことなので、この活動をきっかけに、より多くの生徒が地域を身近に感じ、行事等に参加できることを期待する。				
今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針				
生徒・保護者アンケートからも、今年度の教育活動について、おおむね評価できると回答されている。特に生徒の「学校生活を楽しく過ごさせていますか」など生活に関する項目では、その多くにおいて95%以上の生徒が「とてもそう思う」「そう思う」と回答している。これらのことから、教職員だけでなく保護者・地域の方々に理解と協力いただきながら生徒の指導・支援をしてきたと判断している。 課題は、生徒と地域の方々のふれあう機会が十分でない点であるとする。次年度から始まる地域学校協働活動を活用し、学校という場を通して生徒と地域の方々がふれあう機会を設け、生徒自身が地域の一員である自覚を持てるような取組を計画している。				